

切磋琢磨の中で技術力を向上
高校生ものづくりコンテスト2014
東北大会兼全国大会予選会開催



全国大会は11月15日・16日(旋盤作
業は14日・15日・16日)に開催される

全国の高校生が堂に会して技術・技能を競い合う高校生ものづくりコンテストは、公益社団法人全国工業高等学校長協会が主催し全国9ブロックの持ち回りで開催される。今年は東北ブロックにおいて、11月15日・16日に、旋盤作業、自動車整備、電気工事、電子回路組立、化学分析、木材加工、測量の7部門が実施される。



真剣なまなざしで作業をつづける参加者



上位3名の表彰が行われた。優勝者は全国大会へ出場する

7月30日、31日に山形職業訓練支援センターで行われた電気工部門では、各県から計7名の参加があり、配線工事を150分の競技時間内に行った。出来映え、操作、接続、作業態度などを審査して、順位を決定した。宮城県からは宮城県石巻工業高校の電気情報科3年の今野翔太さんが参加。参加者からは「先生や先輩からアドバイスをもらいながら練習してきた」「効率よく作業を進めるために道具を工夫したり、手順を吟味した」という声があった。優勝者は、青森県立十和田工業高校電気科3年・佐藤大輝さん。「昨年は先輩が全国大会3位。それよりも上位を狙いたい」と全国大会への意気込みを語った。

夏の青葉山で新たな興味を開拓
東北大学工学部オープンキャンパス開催

7月30日・31日、東北大学工学部・工学研究科でオープンキャンパスが開かれ、朝早くから多くの参加者で賑わいを見せていた。当日は各学科の学生たちによる研究に関する展示に加え、講演会や入試に関する説明会などが行われた。



福島原発でも活躍したレスキューロボの説明に聞き入る高校生



角田宇宙センターから持ち込まれたALFLEXの実機



無人探査機の模型の説明に聞き入る高校生

「最初に興味を持つことが大事。これをきっかけに多くの人に機械工学というものに興味をもってもらいたい」と展示スペースで案内を担当していた学生は語った。

知的好奇心がもたらす心豊かな社会を目指す
サイエンスデイAWARD 2014

『学都「仙台・宮城」サイエンスデイ』では、出展者・来場者が「よい」と思ったプログラムを、それぞれ自分の賞をつくることで表彰する取組み「サイエンスデイAWARD」を実施。計47の大学・研究所・企業・行政・学校などが賞を創設し、7月25日には、東北大学で表彰式・交流パーティーが開催された。



カップめんの容器を使ったホパークラフトづくりなどの体験の場を提供

担当で賞「は仙台市立広瀬中学校科学部の「空気を試して実験してみよう」が受賞。ホパークラフトづくりなど未来のものづくりを考える場を提供したことが評価された。

次世代の若い人たちに材料をつくる面白さを
「材料フェスタin 仙台」開催



開会のあいさつでメッセージを贈る奥谷直也氏

住友商事株式会社を取り組んでいる「東日本再生ユースチャレンジ・プログラム」インターンシップ奨励プログラムの入校式が、6月29日、仙台市市民活動サポートセンターで開催された。



インターン一人ひとりの自己紹介

2013年度は宮城・福島の2県で開催したが、2014年度は、宮城・福島・岩手の3県合同での入校式となった。

「日本が誇るマテリアルの世界」材料フェスタin 仙台(主催/産業技術総合研究所、東北大学、物質・材料研究機構)が、7月28日・29日に仙台国際センターで開催された。物質・材料研究機構の潮田資勝理事長は「材料とは必ずしも目に見えるものではないが、日本の技術の根底を支えるものとして非常に重要である。これをきっかけに次の世代の若い人たちに材料をつくる面白さを



学生展示(ポスタープレゼンテーション)では、高校生・高専生・大学生の研究成果を発表。若者たちの情熱・夢を多くの方々に聞いていただいた



交流を深め、受け入れ団体との打ち合わせもスムーズ



参加者全員で記念撮影

者、OBなど60人以上が参加した。同社環境・CSR部長の奥谷直也氏は「コミュニティに深く関わり、社会人の一員として責任と自覚を持ち、主体的に活動してほしい。社会に参画することの意義を実感してください」と、開会のあいさつを述べた。

紹介があり、「地域のために貢献できることにチャレンジしていきたい」「自分の可能性を広げ、成長したい」など抱負を語った。受け入れ団体やOBインターンからのメッセージの後、今後の活動スケジュールについて、打ち合わせが行われた。インターンは7月から9カ月間、活動に取り組んでいく。

宮城県中小企業団体中央会のインターンシップ

広告

宮城県中小企業団体中央会は、県内の中小企業をサポートために、学生の中小企業理解の促進、新規大卒者と中小企業とのマッチング、若手社員の定着率向上を大学と連携してサポートする人材確保・定着支援事業に取り組んでいます。その一環として、大学生の夏季インターンシップを行っており、将来への気づきの場としてもらうとともに、企業にとってはインターンシップ実習生を受け入れることで社員を育てる方法を考える機会とすることを目的としています。

こんな形で実践されています！

受入事業所 株式会社 サイコー

地域のお付き合いを大切にしている企業としてインターンシップの受入も行っています。古紙を回収したり、資源化センターで選別作業をしてもらったりしながら、仕事のやりがいや楽しさを実感してもらっています。

2日間の実習プログラム

8月7日(木)

オリエンテーション
自己紹介
会社概要説明
仙台港資源化センター見学
仙台中央資源化センター見学



8月8日(金)

各部門で現場実習
(営業、廃棄物回収、資源物回収、資源化センター、ドライバー助手)
振り返り・共有
フリーディスカッション

総合リサイクル企業
株式会社 サイコー



- 古紙回収・集団資源回収・卸売
- 機密文書処理
- 古紙リサイクルポイントシステム
- 産業廃棄物収集運搬・処分
- 一般廃棄物収集運搬・処分(事業系・家庭系)
- 廃棄物管理コンサルティング

本社 〒983-0828 仙台市宮城野区岩切分台 1-8-4
Tel 022-255-3150
Fax 022-255-9955

参加者の声

東北文化学園大学3年
大瀧麻衣さん

多くの作業に携わることができ、自分の選別したビン、缶、ペットボトルや発泡スチロールが製品化されるかと思うとすごくうれしかったです。インターンシップを通して現場の様子、社会のしくみの一端を知ることができ、有意義でした。仕事を通して社会人として成長できたらいいなと思いました。



東北文化学園大学3年
齋藤可那さん

地域の人と人とのつながりを大切さにされていることを身に染みて感じました。取引先の方も優しく接してくれていましたが、やはりサイコーさんが取引先の方と良い関係を築いているからこそその優しさだと思います。私も関わってくれている方々への感謝の気持ちや、つながりを大切にしていこうと思います。



お問合せ
宮城県中小企業団体中央会 〒980-0011 仙台市青葉区上杉 1-14-2 宮城県商工振興センター 1F Tel 022-222-5560(代) Fax 022-222-5557